

科目名 (科目番号)	微生物検査学Ⅱ (時間割参照)	教員名 鴻巣 麻子	学科等	臨床検査	必修	履修年次	3
			曜日・時限等	時間割表参照		単位数	1
			授業形態	講義	オフィスアワー	木3・4 B202研究室	
授業概要		微生物学を理解する上で必要な抗生物質、培地、染色法などについて詳細に学び、説明できるようにする。また、臨床の現場では検体の取り扱いが重要になるので、検体ごとに理解し知識を身につける。					
目的・目標		目的:臨床検査技師として、現場で活用できる実践的な知識を身につける。 目標:検体ごとに使用される培地、染色法などについて理解し、説明できるようにする。					
準備学習		毎回の授業について少なくとも1時間程度の予習・復習をすること。					
授業計画	回	授業項目	到達目標・学習内容				
	1	抗生物質	到達目標:抗生物質の種類、作用機序、副作用について理解する。 学習内容:細胞壁合成阻害薬、核酸合成阻害薬、蛋白代謝阻害薬、抗結核薬、などの作用機序、種類などについて学習する。				
	2	抗真菌薬、抗ウイルス薬	到達目標:薬剤耐性菌について理解する。 学習内容:抗真菌薬・抗ウイルス薬の作用機序・種類、薬剤副作用などについて学習する。				
	3	薬剤耐性菌	到達目標:薬剤耐性菌について理解する。 学習内容:メチシリン耐性黄色ブドウ球菌、バンコマイシン耐性腸球菌、基質特異性拡張型βラクタマーゼ産生菌、多剤耐性アシネトバクターなどについて学習する。				
	4	培地学(1)	到達目標:各種培地の種類、特徴について理解する。 学習内容:選択培地、非選択培地、性状確認培地、輸送培地などの成分、特徴、使用目的などについて学習する。				
	5	培地学(2)	到達目標:菌種ごとの培地での発育、特徴について理解する。 学習内容:培地に発育するコロニーは菌種ごとに特徴がある。また性状確認培地ではその発育の仕方でも菌の同定が行われるので、これらについて知識を整理し、学習する。				
	6	グラム染色と感染症	到達目標:感染症に関連するグラム染色について理解する。 学習内容:検体のグラム染色を見ながら症例について学習する。肺炎、髄膜炎、血液感染症などについて学習する。				
	7	検体の取り扱い方(1)	到達目標:各臨床検体の採取、保存などについて理解する。 学習内容:検体はそれに含まれている起因菌ごとに取り扱いが異なるので、それらについて知識を整理し、学習する。				
	8	検体の取り扱い方(2)	到達目標:各臨床検体の培養について理解する。 学習内容:臨床検体では起因菌と思われる菌種ごとに使用する培地が異なるので、それらについて知識を整理し、学習する。				
成績評価の方法・基準		期末試験 100% (対面・オンライン共通)					
教科書		最新臨床検査学講座 臨床微生物学 微生物検査学実習書	松本哲哉 編集 森田耕司 編集		医歯薬出版 医歯薬出版		
参考図書							
教員からのメッセージ		1, 2年次の講義と2年次の実習とを総合的に結び付けて、臨地実習前の復習とします。授業の進行状況により項目が変更になることがありますが、その場合は事前にお知らせします。総合病院で勤務した臨床検査技師がこの授業を担当します。オンライン授業に伴い授業計画に変更がある場合は、オンラインクラスで変更のシラバスを周知します。					